The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Annuœ Litteræ Prouinciæ Franciæ Ad annum Christi 1656とパスカルの『プロヴァンシアルの手紙』
Author(s)	森川, 甫
Citation	Gallia. 1992, 31, p. 75-80
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/3951
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Annuæ Litteræ Prouinciæ Franciæ Ad annum Christi 1656 と パスカルの『プロヴァンシアルの手紙』

森　川　　甫

I

すでに数々の発明，発見をなした令名高い自然学者であり，また，1654年「決定的回心」という宗教体験をした熱き信仰者ブレーズ・パスカルは，未完の大著，『パンセ』と呼ばれるキリスト教弁証論を1658年頃より執筆を始めた。彼は1656年1月から1657年3月にかけて，『プロヴァンシアルの手紙』[1)]を次々と書いて，出版し，ジャンセニスト，ポール・ロワイヤル修道院の人々を弁護し，ジェジュイット（イエズス会士）の神父たちと大論争を行った[2)]。

---

1) PASCAL (Blaise), *LETTRE A VN PROVINCIAL*, . . . , *Edition princeps*, 1656-1657.
——*Les Provinciales*, Cologne, 1657 (398-111 p.)
——*Les Provinciales*, Cologne, 1657 (396-108 p.)
——*Litterae provinciales . . . a Wilhelmo Wendrockio . . . e gallica in latinam linguam translatæ*, cologne, N. Schoute 1658, XL-646, p. in-8°.
——*Les Provinciales*, 1660.
——*Les Provinciales*, 1699.
——*Les Provinciales*, Paris, éd. Maynard, 1851.
——*Les Provinciales*, éd. Havet, Paris, 1885.
——*Les Provinciales*, Paris, éd. Molinier, 1891.
——*Œuvres Complètes*, Paris, Hachette, (Grands Ecrivains), éd. Brunschvicg, 1904-1914, 14 vol. in-8°.
——*Les Provinciales*, Paris, éd. Tourneur, 1944.
——*Les Provinciales*, Ed. Steinmann, Paris, 1962.
——*Œuvres Complètes*, Paris, Seuil, éd, Lafuma, coll. 《L'Intégrale》 1963, in-8°, 677 p.
——*Les Provinciales*, Paris Garnier, éd. de L. Cognet, 1965, 503 p. in-8°.
——*Les Provinciales*, Paris Garnier-Flamarion, éd. d'Antoine Adam, 1967.
——『パスカル著作集』Ⅲ，Ⅳ。田辺　保全訳。教文館。1980。
——『パスカル全集』第二巻，人文書院，昭和34年。

2) Cf. MORIKAWA (Hajime), Les Jésuites devant *les Provinciales* de Blaise Pascal-Examen des réponeses jésuites, *Kwansei Gakuin University Annual Studies*, Vol. XXXI. 拙論，「『プロ↗

『プロヴァンシアルの手紙』においてパスカルが表現したジャンセニストとその論敵のジェジュイットの姿は，これをまとめれば次のようになるであろう。ジャンセニストは，その教義においても，その道徳的生活においても統一性があるのに対し，ジェジェイットは，多様である。ジャンセニストの表現は明晰，また，率直であるが，ジェジュイットは，不明瞭で，誇張がある。ジャンセニストは読者を信用して，真実を読者に訴えているが，ジェジュイットは読者を信用せず，問題を専門の聖職者にのみとどめようとする。ジャンセニストは伝統的権威，永遠の心理を求めるが，ジェジュイットは新しい権威になろうとし，真理は変わりうるものとしている。ジャンセニストは聖書の道徳律法を絶対的な道徳とするが，ジェジュイットにとっては，倫理は人間を取り巻く状況によって変わりうるものである。それゆえ，聖書に立ち戻って，キリスト教の立場から，判断すれば，ジャンセニストは宗教の根源的な教えに適合しており，ジェジュイットは，適合していない。それゆえ，伝統的なキリスト教，聖書的なキリスト教の観点からいえば，ジャンセニストは正統的であり，ジェジュイットは，異端となる。実際には，地理的世界の拡大，近代科学の誕生という時代の変動期に，ジャンセニストは永遠の真理，伝統的なキリスト教の信仰を守り，求め続けようとした伝統派であるのに対し，ジェジュイットは，新しい時代への適応に努力した近代派であろうが，『プロヴァンシアルの手紙』の論理的な帰結からいえば，上記のように要約できるであろう。ジャンセニストに対する迫害が一層強くなり，ついには，ポール・ロワイヤル修道院の廃止にまでいたるが，『プロヴァンシアルの手紙』が非常に多くの読者を得，共感をもって読まれたことは否定できない。そして，ジェジュイットはこの『プロヴァンシアルの手紙』によって，とりわけ，その道徳の教えは大打撃を受けることになる。

II

この『プロヴァンシアルの手紙』に対して，ジェジュイットの評価はどうであろうか。たとえば，同時代のラパン神父の証言[3]とか，少し後年のダニエル神父（*Entretiens de Cléandre et d'Eudoxe*）の評価[4]とか，個人としての証言，評価はあるが，イエズス会の公式の報告は伝えられていなかった。本論文ではわれわれは，フランスからローマのイエズス会本部への公式の年次報告書にも

ヽヴァンシアル』論争の起源と経過」「関西学院大学社会学部紀要」1968.

3) RAPIN (Le P. René), *Mémoires du P. Rapin*, . . . , 1865, 3 vol.

4) DANIEL (Le P. Gabriel), *Entretiens de Cléandre et d'Eudoxe*, 1694.

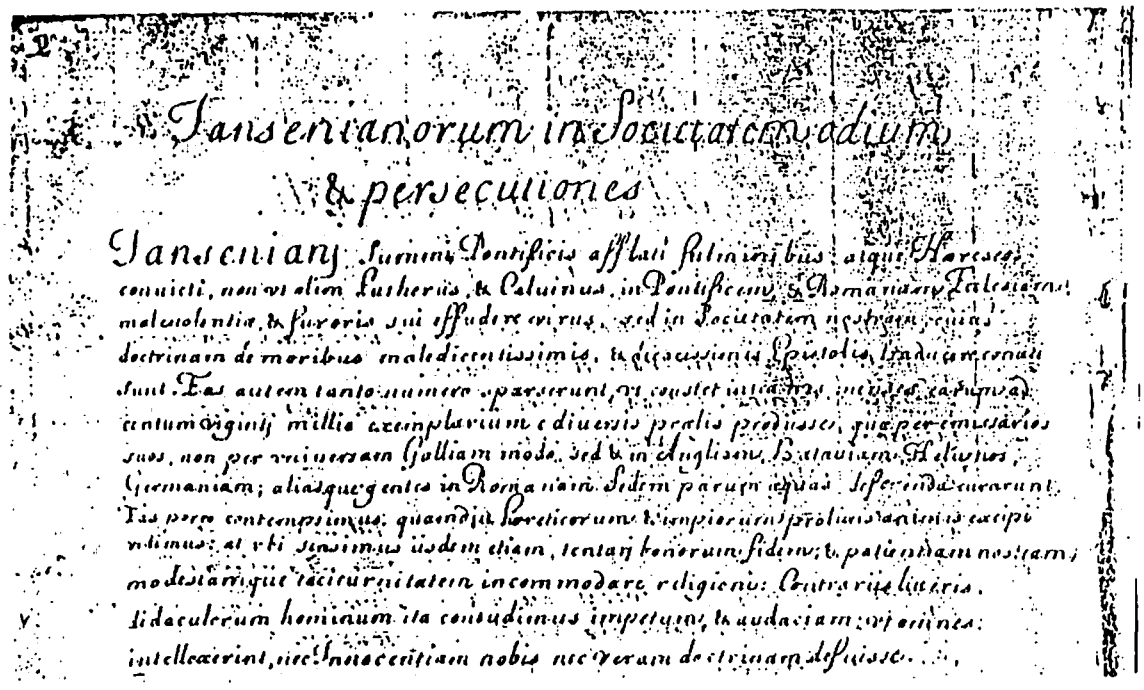
とづいて，『プロヴァンシアルの手紙』についてのジェジュイットの評価を調べた。

公式の年次報告文書は，「今日まで，少なくとも，フランスにおいては知られていなかった」（Jean Mesnard 教授の証言）が，われわれはその文書が ARCHIVUM ROMANUM SOCIETATIS IESU に存在することを発見した[5]。その報告書は次のとおりである。

> *Annuæ Litteræ Prouinciæ Franciæ Ad annum Christi 1656*, Roma, ARCHIVUM ROMANUM SOCIETATIS IESU, 6 feuilles (12p).

この *Annuæ Litteræ*「年次報告書」のなかに，『プロヴァンシアルの手紙』に関する記述を発見した。

以下，その報告記事を年次報告書原文（手稿）コピー，ラテン語テキスト（タイプした文書），および，邦訳の順に提示する。



Jansenianorum in Societatem odium
& persecutiones

Jansenian[illegible] Summi Pontificis afflati fulminibus atque Haeresis convicti, non vt olim Lutherus, & Caluinus, in Pontificem, & Romanam Ecclesiam malevolentiae, & furoris sui effudere virus, sed in Societatem nostram, eiusque doctrinam de moribus maledicentissimis, & decessionis Apostolicae traducem conati sunt. Eas autem tanto numero sparserunt, vt constet intra [illegible] centum millia exemplarium e diuersis prodiisse, quae per emissarios suos, non per vniuersam Galliam modo, sed & in Angliam, Bataviam, Helueticos, Germaniam; aliasque gentes in Romanam Sedem parum aequas deferendae curarunt. Eis pro contemptissimis quamdiu haereticorum, & impiorum prolationes, ac ineptias excipiendas, et vbi sensimus iisdem etiam, tentari bonorum fidem, & patriam nostram, modestiamque taciturnitatem incommodare religioni. Contra vitia luxuriosa, fidaculorum hominum ita consudimus impetum, & audaciam, vt omnes intellexerint, nec Innocentiam nobis nec veram doctrinam defuisse.

5) *Annuæ Litteræ Prouinciæ Franciæ Ad annum Christi 1656*, Roma, ARCHIVUM ROMANUM SOCIETATIS IESU, 6 feuilles (12 p.).

Cf. [*Annuæ Litteræ Prouinciæ Franciæ Ad annum Christi 1656*,（『1656年度フランス管区年次報告書』）について—*Les Lettres Provinciales*,（『プロヴァンシアルの手紙』）に関して—」「関西学院大学社会部紀要」63号，1991年。

Jansenianorum in Societatem odium & persecutiones

Janseniani Summi Pontificis afflati fulminibus ; atque Hæreseos conuicti, non ut olim Lutherus, & Calvinus, in Pontificem, & Romanam Ecclesiam maleuolentiæ, & furoris sui effudere virus, sed in Societatem nostram, cuius doctrinam de moribus maledicentissimis, & dicacissimis Epistolis traducere conati sunt. Eas autem tanto numero sparserunt, ut constet intra tres menses earum ad centum viginti millia exemplarium e diversis prælis prodiisse, quæ per emissarios suos, non per vniuersam Galliam modo, sed & in Angliam, Batauiam, Heluetios, Germaniam ; aliasque gentes in Romanam Sedem parum æquas deferenda curarunt. Eas porro contempsiums quamdiu hæreticorum & impiorum prolixis animis excipi vidimus : at vbi sensimus iisdem etiam, tentarj bonorum fidem, & patientiam nostram modestamque taciturnitatem incommodare religioni : Contrariis litteris didaculorum hominum ita contudimus impetum & audaciam vt omnes intellexerint, nec Innocentiam nobis nec veram doctrinam defuiss

イエズス会に対するジャンセニストの憎悪と迫害

ローマ教皇の雷に打たれた明白な異端であるジャンセニストたちは，かつてのルターやカルヴァンの如くローマ教会の教皇に対して彼らの毒をまき散らす代わりに，イエズス会に歯向かってきた。彼らはイエズス会の道徳を中傷と嘲笑とに満ちた彼らの手紙の中で歪曲した。そして，これらの手紙は，非常に数多くまき散らされた。というのは，彼らはあきらかに３カ月間に，さまざまな印刷機を用いて　約12万部の手紙を発行した。そして，これらの手紙は，フランス全体，イギリス，オランダ，スイス，ドイツ，また，ローマ教皇にほとんど好意を持たない他の国の人々にも広がった。さらにまた，私たちは，異端と

不敬虔で動揺する精神の持ち主によって歓迎されているのを見ているかぎりは，これらの手紙を軽蔑して見過ごしてきた。しかし，これらの手紙によって，善意の人々の信仰が脅かされ，私たちの忍耐と謙虚な沈黙によって宗教が損なわれることがわかるとただちに，私たちが純粋さや真の教理に欠けるものでなかったことをすべての人々が理解するように，［これらの手紙の］激しく，そして，ずうずうしい嘲笑を撃退した。

III

「年次報告書」の解釈

「イエズス会の道徳を中傷と嘲笑とに満ちた彼らの手紙のなかで歪曲した」。『プロヴァンシアルの手紙』はジェジュイットの道徳と共に，恩寵問題もとりあげているが，この「年次報告書」の記述では，道徳に関してのみ言及している。パスカルの，ジェジュイットの道徳に関する非難，攻撃に大きな痛手を感じていたのであろう。

「これらの手紙は，非常に数多くまき散らされた。というのは，彼らはあきらかに３カ月間に，さまざまな印刷機を用いて　約12万部の手紙を発行した」。

「３カ月間に」という期間に，『プロヴァンシアルの手紙』のどの手紙が関係するであろうか。「第13の手紙」が1656年９月30日，「第14の手紙」が10月23日，「第15の手紙」が11月25日，「第16の手紙」が12月４日，「第17の手紙」が1657年１月23日の日付となっているから，この「年次報告書」が12月末日に書かれたとすると，「第14の手紙」から「第16の手紙」までの３通，「第13の手紙」を含めたとしても，４通の手紙が該当するであろう。この３～４通の手紙が「約12万部」発行されたと報告されている。Saint-Gilles によれば「第17の手紙」は１万部印刷されている[6]。この数字と比較すると，３～４通の手紙が「約12万部」ということは，各手紙それぞれ３～４万部ということになる。発行部数が非常に多く報告されているのは，実際にそうだったとしても，あるいは，誇張しているとしても興味ある表現である。「約12万部」というのは，驚きと不安の表れであるだろう。

「これらの手紙は，フランス全体，イギリス，オランダ，スイス，ドイツ，また，ローマ教皇にほとんど好意を持たない他の国の人々にも広がった」。

6) Cf. L. Cognet. *op. cit.*, p. 327.

パリで読まれ，フランス国内にも送られたというのがこれまでの通説であるが，この「年次報告書」によればヨーロッパ各国に送られていたことになる。これらの国はカルヴァン派，ルター派の勢力の強い国であるので，実際に，これらの国へ送られていたとしても，あるいは，カルヴァン，ルターの「異端」と結びつけるためだとしても，いずれにしても興味あることである。

> 「異端と不敬虔で動揺する精神の持ち主によって歓迎されているのを見ているかぎりは，これらの手紙を軽蔑して見過ごしてきた。しかし，これらの手紙によって，善意の人々の信仰が脅かされ，私たちの忍耐と謙虚な沈黙によって宗教が損なわれることがわかるとただちに，私たちが純粋さや真の教理に欠けるものでなかったことをすべての人々が理解するように，[これらの手紙][7]の激しく，そして，ずうずうしい嘲笑を撃退した」。

この記述は，『プロヴァンシアルの手紙』の初期の頃には，ジェジュイットの反論文書はほとんど現れなかったが，やがて現れるようになる論争の経過と合致する[8]。

これらの記述の表題は，「イエズス会に対するジェンセニストの憎悪と迫害」である。迫害されているのは，ジャンセニストのはずであるが，この記述では，ジャンセニストがジェジュイットを「迫害」していることになる。

この「迫害」と，さきに挙げた「3カ月間に，約12万部の手紙を発行」されたこと，「イギリス，オランダ，スイス，ドイツ」その他，ヨーロッパ各国へ送られたと記述していることは，パスカルの『プロヴァンシアルの手紙』を痛烈な批判攻撃とジェジュイットが受け止めている表れであろう。

(D. 1963　関西学院大学教授)

---

7) 筆者の補筆

8) Cf. MORIKAWA (Hajime), *op. cit.*, p. 40.